



「蓮」で広がる友好の輪

行田の夏を彩る蓮が見ごろを迎えた7月11日、「みらい」文化ホールで蓮サミットが開催されました。

第1部では、現代俳句協会名誉会長の金子兜太さんが「蓮の花の俳句」と題した基調講演を行い、蓮が登場する俳句を紹介。ユーモアを交えた解説に会場からは大きな拍手が沸き起こりました。

また、工藤市長、南定雄蓮文化研究会会長、金子明雄京都花蓮研究会事務局長らが参加して行われた第2部のパネルディスカッションでは、蓮を生かした観光まちづくりについて意見が交わされました。「蓮は友好の象徴である。全国、そして世界に友好の輪を広げたい」という工藤市長の言葉で締めくくられました。



除草で汗を流し苗木の生長を確認

総合公園多目的グラウンド西側に約3,000本の苗木を植えたいのちを守る森づくり親子植樹祭から1年。植樹した苗木の生長を確認してもらうため、いのちを守る森づくり第1回育樹祭が7月12日に開催されました。

昨年植樹に参加した親子ら150人の参加者は、すくすくと育っている苗木に1年間の月日を振り返り、約1時間の除草作業を行いました。



薄紫色の花が池一面に咲くように

7月14日、水城公園あおいの池で毎年恒例となったホテイアオイの投げ込みが行われました。

南小学校3年生の児童と長野中学校の生徒、計76人が参加し、市内の足袋製造会社と熊谷市の田中穂さんより提供してもらった約10,000株のホテイアオイを投げ込みました。順調に育つと9月末ごろに薄紫色の花が池一面に咲く予定です。